

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク講演会

— 来賓挨拶 —



大臣官房審議官 三好信俊

ただいまご紹介いただきました国土交通省大臣官房審議官の三好でございます。

本日は「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」講演会が盛大に開催されますこと、心よりお喜び申し上げます。

また、この「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」は、今年で15周年を迎えられたと伺っております。これまで、港湾を核とした日本海沿岸地域の連携と交流に御尽力されてこられましたネットワーク会員の皆様に対しまして、心から敬意を表させていただきます。

さて、本日の講演会でも話題に取り上げられると思いますが、日本海沿岸地域は、古くは江戸時代に北前船でヒトやモノ、そして文化や情報などが運ばれることにより相互の交流が盛んに行われ、独自の社会・経済文化圏を築き上げてこられたと承知をいたしております。

一方、対岸に目を移しますと、中国やロシアの経済発展は著しく、豊富な天然資源などを背景に我が国との経済交流が盛んに行われていますし、中国や韓国との人の相互交流も頻繁に行われるなど、我が国における北東アジア地域の重要性は高まっております。

このような中、日本海側の港湾におきましても、国際フェリーなどの定期航路の開設やアジアからのクルーズ船の寄港増加など、対岸諸国との交流が進んでいるところでございまして、古代から対岸諸国との交流が深く、地理的にも近い日本海沿岸地域が果たすべき役割は今後益々大きくなっていくものと考えています。このような状況を踏まえまして現在国土交通省では、アジアの経済成長をわが国の成長に取り入れ、日本海側に港湾の競争力の強化を図ることなどを考えまして、日本海側の拠点港の形成ということにつきまして検討を進めているところでございます。

本日のパネルディスカッションにおきましては、環日本海を舞台にした貿易、観光をテーマに新たな取り組みをご提言いただけるものと期待しておりまして、私どもの施策にも活かしていきたいと思っております。

最後になりましたが、ご参加の皆様方と日本海沿岸地域、開催市松江市のますますの発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。おめでとうございます。